



老後はさらに生きにくい東京砂漠

東京と山梨での二地域居住を始めて早や30年を超えた。これまで東京で満開になった桜を見て、概ね一週間か10日後ぐらいに、山梨であらためて満開の桜を楽しんだが、今年は温暖化のせいも、東京と山梨の桜の開花日が一緒に、満開時期もほぼ一緒。ともに桜はほぼ散って、新緑の季節へと移行しつつある▼二地域居住は畑仕事をしたくて山梨の竹藪を購入して開墾したのが、そもそもである。当時は集落には活気があり、お祭りも盛んであったが、最近ではお祭りは継続してはいないもの、担ぎ手が少なく、おみこしを担ぐ途中で軽トラに乗せたりもして何とかカバーしている。これが象徴するように高齢化は顕著であり、活気も低下していることは確かであるが、それでもお年寄りは畑での仕事があり、近所づきあい等もあつたりと、それなりに動いている人も少なくない▼高齢化は農村だけではなく都会も同じで、高齢化のスピードはむしろ都会の方が顕著だ。東京で自治会の会長や市の地域協力ネットワークの代表もしているの見立てであるが、とにかく東京のお年寄り、特に男性は外に出ることが少ない。近くのスーパーに買い物に出かけるぐらいがせいぜいで、どうも見るともなしにテレビの前でじっとして家に閉じこもっていることが多く、近所づきあいらしいものはない。後期高齢者になる前後から終活に取組み、遠からず施設の世話になることを考えるようになり、けがや骨折が施設に入るトリガーになる人が多いのでは▼年寄りにとつて都市と農村のどちらが生きやすいかは簡単には言えないが、都会では庭仕事も減り、地域コミュニティも崩壊状態。こんな都会で老後をどう生きていくのか。都会の実情は農村以上に深刻であると言わざるを得ない。

(土着菌)